

## 日本のETF市場の特徴

原田 喜美枝

### 目 次

1. はじめに
2. 日本市場の特徴
3. 現物拋出型ETFの設定
4. 終わりに

日本のETF市場には200銘柄以上が上場されているが、上位5銘柄の日本株指数に連動するETFの残高で市場全体の純資産総額の約7割を占めること、その一方で、一日平均の売買代金の約8割はデリバティブ型ETFで説明できること、などに特徴がある。また、市場が大幅に成長している割には認知度が低いこと、近年は中央銀行による出口なきETF買入政策が大幅に拡大していること、なども挙げることができる。ETF市場の拡大は日本銀行の買入政策との関連が強く、諸外国にはない日本独自のリスクといえる。健全な市場の拡大には、個人投資家や機関投資家の利用を促進する施策が欠かせない。

### 1. はじめに

ETFは、Exchange Traded Fundの頭文字を取った略語であり「上場投資信託」と呼ばれ、その名の通り、証券取引所に上場して取引される投資信託である。

日本のETF市場は、2001年にTOPIX及び日経平均株価に連動するETFが導入されたことによって本格的にスタートしている（注1）。その後、業種別、規模別、テーマ別の株価指数に連動するETFや、外国株、債券、REITや金等のコモディティ価格に連動するETFが登場してきた。11年

からは、ETN（Exchange Traded Noteの頭文字を取ったもので、指数連動証券と呼ばれる。Noteは債券を意味する）も取引されている。16年10月末時点で205銘柄（ETN19銘柄を含めると224銘柄）が上場されている。全体の銘柄数で見れば06年の13銘柄から飛躍的に増えている。

銘柄数だけでなく純資産総額も増えている。16年9月時点の純資産総額は17.3兆円であり、10年末の2.6兆円に比べると規模の面では6.7倍となっている。日本のETF市場は順調に拡大しているが、世界のETF市場も大きく伸びている（図表1）。世界のETF市場の中に占める日本



原田 喜美枝（はらだ きみえ）

中央大学商学部教授。01年東京大学大学院経済学研究科博士課程修了、博士（経済学）。中央大学専門職大学院准教授などを経て12年より現職。金融庁金融審議会委員、財務省財政制度等審議会財政投融資分科会専門委員、日本証券業協会自主規制会議公益委員。近刊含む最近の著書に『金融システムと金融規制の経済分析』（共著、勁草書房、13年）、『日本のワイン The Wines of Japan』（共著、イカロス出版、17年春出版予定）。